

岡山県感染症週報 2016年 第43週 (10月24日～10月30日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。
岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』を発令しました。（11月2日）

◆2016年 第43週（10/24～10/30）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

- 第41週 2類感染症 結核 1名（60代 女）
第42週 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名（80代 男）
第43週 2類感染症 結核 4名（20代 男 2名、60代 女 1名、80代 男 1名）
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名（O157：高校生 男）
5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1名（60代 男）

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- RSウイルス感染症は、県全体で70名（定点あたり1.72 → 1.30人）の報告があり、前週より減少しました。
○感染性胃腸炎は、県全体で389名（定点あたり6.54 → 7.20人）の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

【第44週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名（O111：生徒 男）の発生がありました。（11月2日）
○総社市内の高等学校1校で、今シーズン県内初のインフルエンザによるとみられる臨時休業がありました。（11月2日）

※今年のインフルエンザシーズンは、第36週～2017年第35週（2016/9/5～2017/9/3）です。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第43週に1名の報告があり、2016年第43週まで（～10/30）の報告数は57名となりました。岡山県では「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、発生報告が多いのは夏季ですが、依然として患者の発生がつづいています。ひきつづき手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. **RSウイルス感染症**は、県全体で70名（定点あたり1.72 → 1.30人）の報告があり、前週より減少しました。2週連続で報告数は減少しましたが、依然として過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、美作地域（2.33人）、倉敷市（1.91人）、岡山市（1.79人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. **感染性胃腸炎**は、県全体で389名（定点あたり6.54 → 7.20人）の報告があり、前週よりわずかに増加しました。この感染症は、主にウイルスや細菌を原因とする胃腸炎の総称で、一年を通して発生していますが、特に冬季に発生報告が多くなります。岡山県では、最近の県内の感染性胃腸炎発生状況から、ノロウイルスによる食中毒の発生が危惧されるため、11月2日に「[食中毒（ノロウイルス）注意報](#)」を発令し、食中毒予防を呼びかけています。今後の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めましょう。

◆◆ お知らせ ◆◆

11月に入り、インフルエンザの流行が懸念される時期になりました。次週（第44週）から、岡山県感染症週報及び岡山県感染症情報センターホームページに、『インフルエンザ情報』の掲載を開始いたします。

『インフルエンザ情報』では、「[地区別発生状況](#)」「[ウイルス検出状況](#)」「[学校等の臨時休業施設数](#)」「[入院サーベイランス](#)」など、県内の発生状況をお知らせします。

また、岡山県感染症情報メールマガジンでは、発生状況の概要を掲載するとともに、インフルエンザ注意報・警報発令時には臨時号を発行し、より早く情報をお届けします。

『インフルエンザ情報』をインフルエンザの予防と感染拡大防止にお役立てください。

流行の推移と発生状況

	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★★★★★	RSウイルス感染症	▲	★★★★★
咽頭結膜熱	▼	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▶	★★★★★
感染性胃腸炎	▶	★★★★★	水痘	▲	★
手足口病	▶	★★	伝染性紅斑	▼	★
突発性発疹	▶	★★	百日咳	▲	★★★
ヘルパンギーナ	▼	★	流行性耳下腺炎	▲	★
急性出血性結膜炎	▶		流行性角結膜炎	▲	★
細菌性髄膜炎	▶		無菌性髄膜炎	▲	★★★★★
マイコプラズマ肺炎	▲	★	クラミジア肺炎	▶	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▶	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 ▶：増加 ▶：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▶：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示しているものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。

拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水洗濯か**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗った後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85～90℃で90秒間以上)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

[○ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

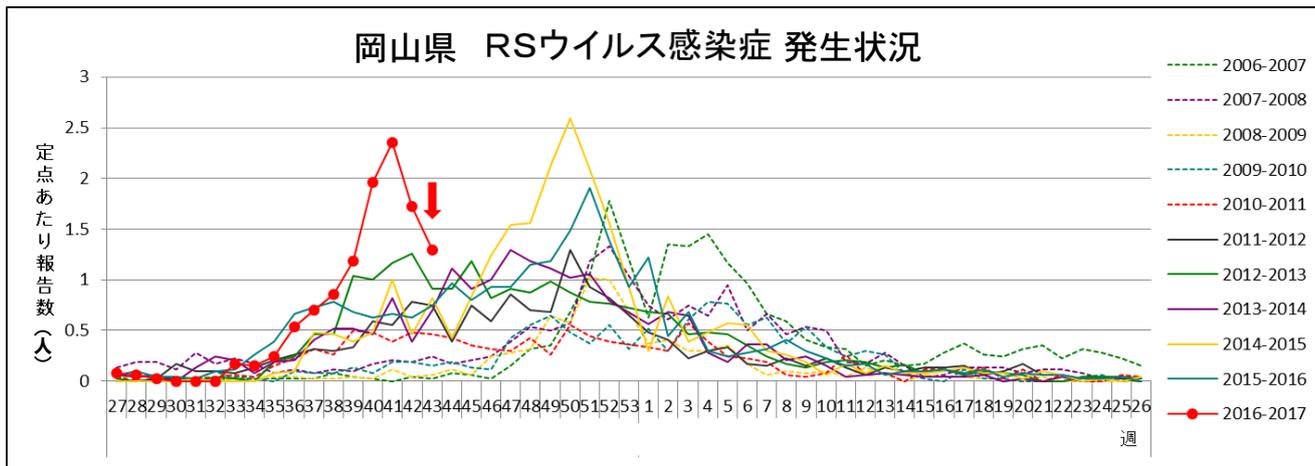
[○ノロウイルス感染症とその対応・予防 \(家庭等一般の方々へ\) \(国立感染症研究所\)](#)

[○IASR ノロウイルス等検出状況 \(国立感染症研究所\)](#)

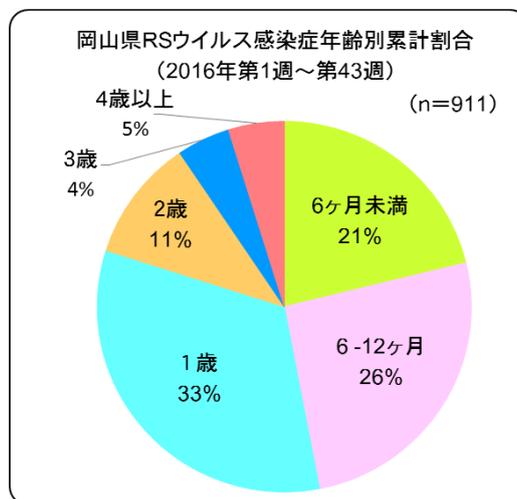
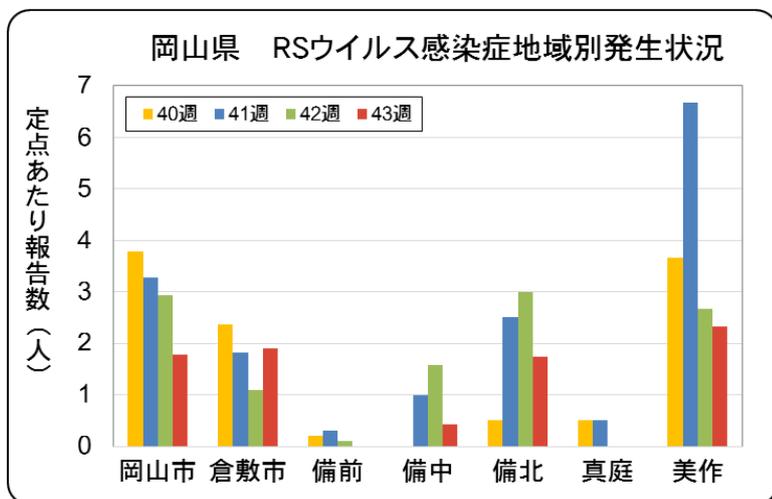
今週の注目感染症

RSウイルス感染症

【岡山県の発生状況】

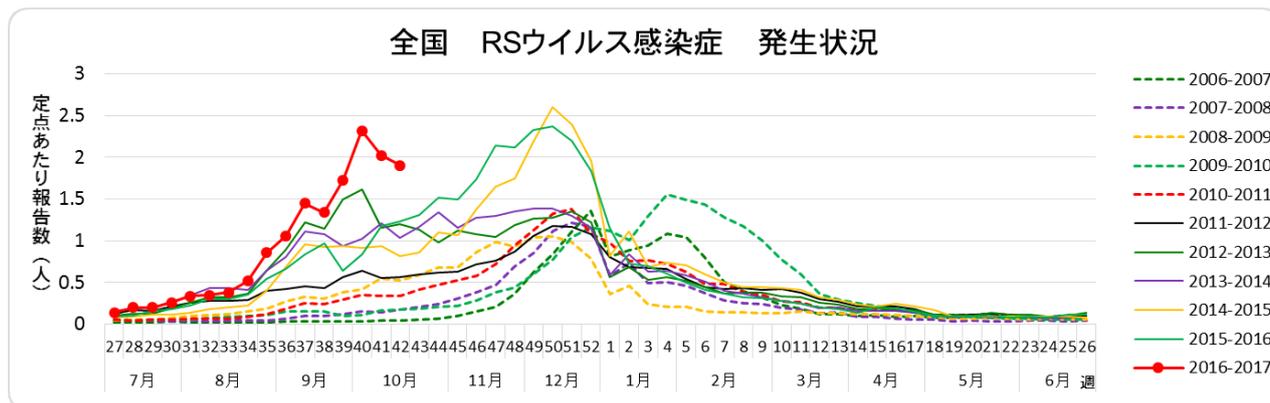


※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

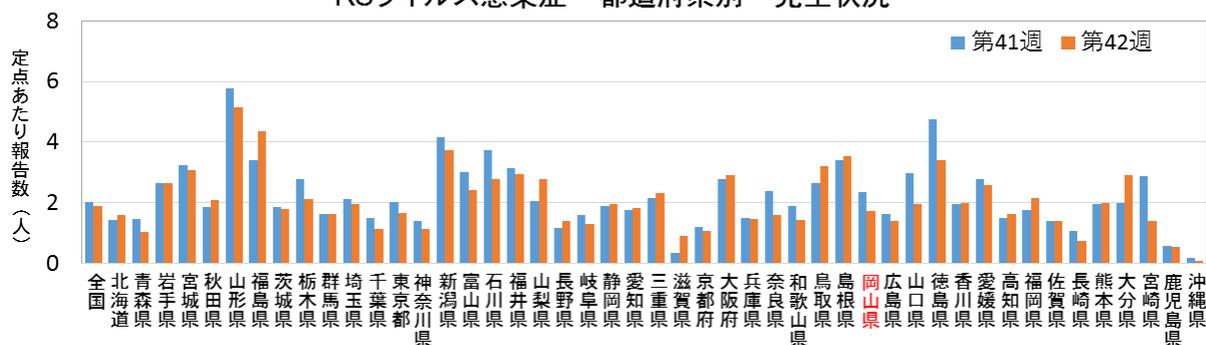


RSウイルス感染症は、県全体で70名（定点あたり1.72 → 1.30人）の報告があり、前週より減少しました。2週連続で報告数は減少しましたが、依然として過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、備前・真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されており、美作地域（2.33人）、倉敷市（1.91人）、岡山市（1.79人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。ほとんどの地域で患者の減少がみられましたが、倉敷市（1.09 → 1.91人）では増加しています。2016年第43週までの年齢別累計割合では、1歳未満の乳児が全体の47%を占めています。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されています。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、特に重症化しやすい乳児がいる家庭では、感染予防に努めてください。

【全国の発生状況】



RSウイルス感染症 都道府県別 発生状況



全国の第42週（10/17～10/23）の発生状況は、定点あたり報告数が1.90人であり、2週連続で減少しました。報告数は減少しましたが、過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。都道府県別では、山形県（5.13人）、福島県（4.37人）、新潟県（3.72人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。中国・四国地方では、島根県（3.52人）、徳島県（3.39人）、鳥取県（3.21人）の順となっており、近隣県でも多くの患者が報告されています。

[IDWR 速報データ 2016年第42週（国立感染症研究所）](#)

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。感染後2～8日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約7割の乳児が1歳になるまでにRSウイルスに感染し、そのうちの約3割が肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を示します。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以内にRSウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。乳児が感染すると、症状が悪化しても平熱か38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼーゼーとのがが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。年齢を問わず、生涯にわたり感染と発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【感染経路】

感染している人が咳やくしゃみ、または会話をした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、ウイルスがついている手指や物品を触ったり、なめたりすることにより感染します。

【乳児への感染予防】

乳児期を過ぎると、RSウイルスに感染しても軽症となり、感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の予防につながります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。現在、RSウイルス感染症に有効なワクチンはありません。

【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2016年 43週(定点把握)

(2016/10/24～2016/10/30)

2016年11月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	9	0.11	1	0.05	5	0.31	-	-	1	0.08	-	-	-	-	2	0.20
RSウイルス感染症	70	1.30	25	1.79	21	1.91	-	-	3	0.43	7	1.75	-	-	14	2.33
咽頭結膜熱	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	0.98	7	0.50	25	2.27	4	0.40	10	1.43	1	0.25	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	389	7.20	85	6.07	106	9.64	53	5.30	25	3.57	21	5.25	14	7.00	85	14.17
水痘	20	0.37	7	0.50	4	0.36	-	-	1	0.14	1	0.25	1	0.50	6	1.00
手足口病	50	0.93	27	1.93	18	1.64	3	0.30	-	-	-	-	2	1.00	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	27	0.50	13	0.93	8	0.73	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	34	0.63	14	1.00	12	1.09	4	0.40	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	4	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	0.40	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	-	-	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2016年 43週(発生レベル設定疾患)

(2016/10/24~2016/10/30)

2016年11月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	9	0.11	1	0.05	5	0.31	-	-	1	0.08	-	-	-	-	2	0.20
咽頭結膜熱	2	0.04	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	0.98	7	0.50	25	2.27	4	0.40	10	1.43	1	0.25	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	389	7.20	85	6.07	106	9.64	53	5.30	25	3.57	21	5.25	14	7.00	85	14.17
水痘	20	0.37	7	0.50	4	0.36	-	-	1	0.14	1	0.25	1	0.50	6	1.00
手足口病	50	0.93	27	1.93	18	1.64	3	0.30	-	-	-	-	2	1.00	-	-
伝染性紅斑	3	0.06	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	2	0.04	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	34	0.63	14	1.00	12	1.09	4	0.40	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	4	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第43週 2016/10/24~2016/10/30)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	9	-	-	2	-	-	2	-	2	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	70	14	19	22	8	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53	-	-	-	5	6	1	7	4	3	10	6	9	-	2
感染性胃腸炎	389	6	23	76	49	51	36	23	17	12	15	12	27	6	36
水痘	20	-	1	1	3	2	3	1	3	1	2	1	1	-	1
手足口病	50	1	6	29	6	3	-	3	1	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	27	2	8	12	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
百日咳	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	34	-	-	-	6	4	7	7	3	2	1	2	2	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-

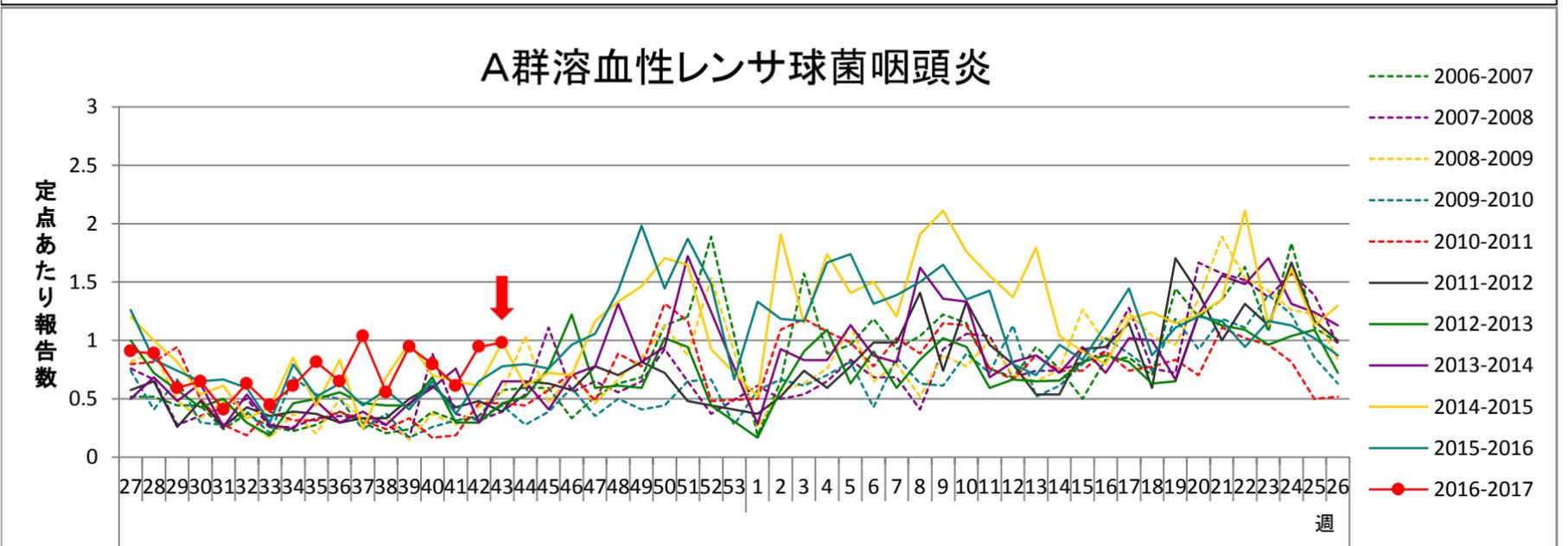
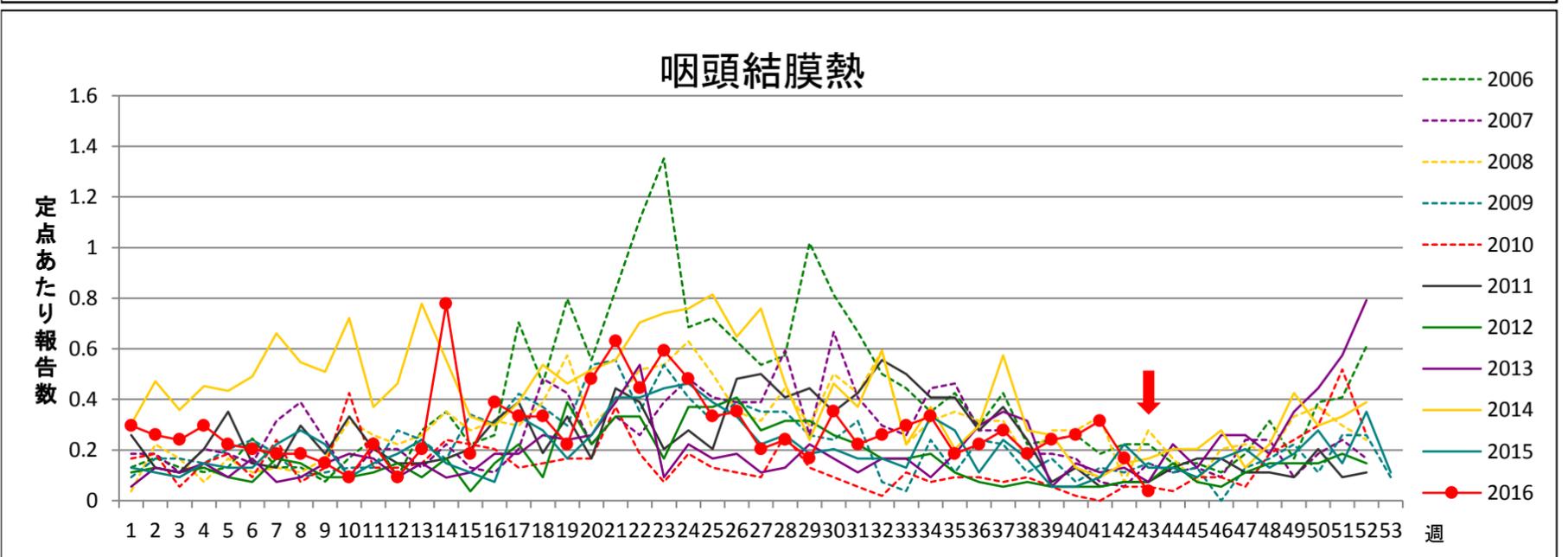
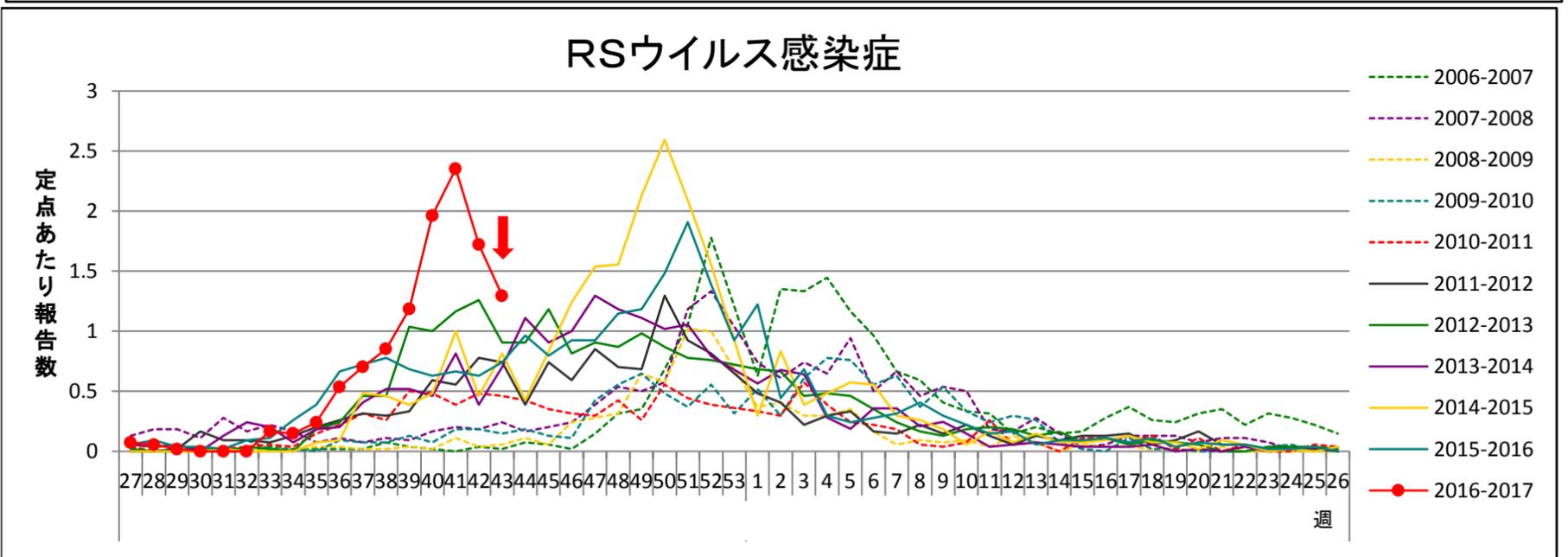
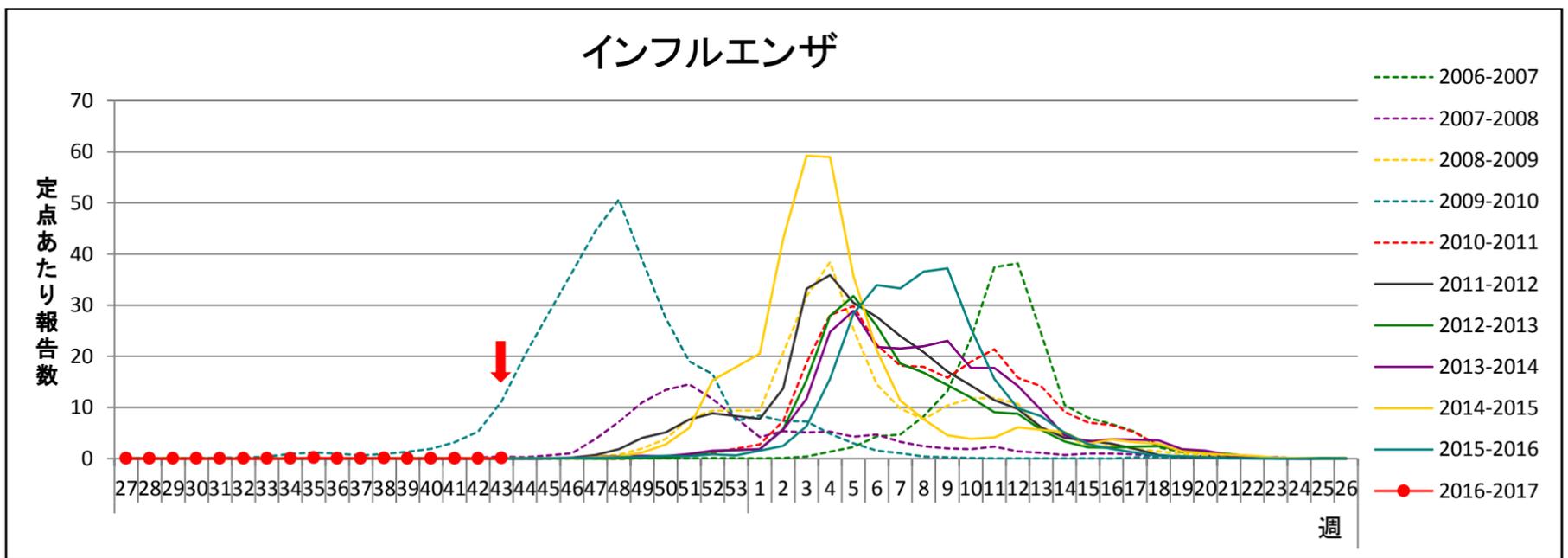
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	1	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

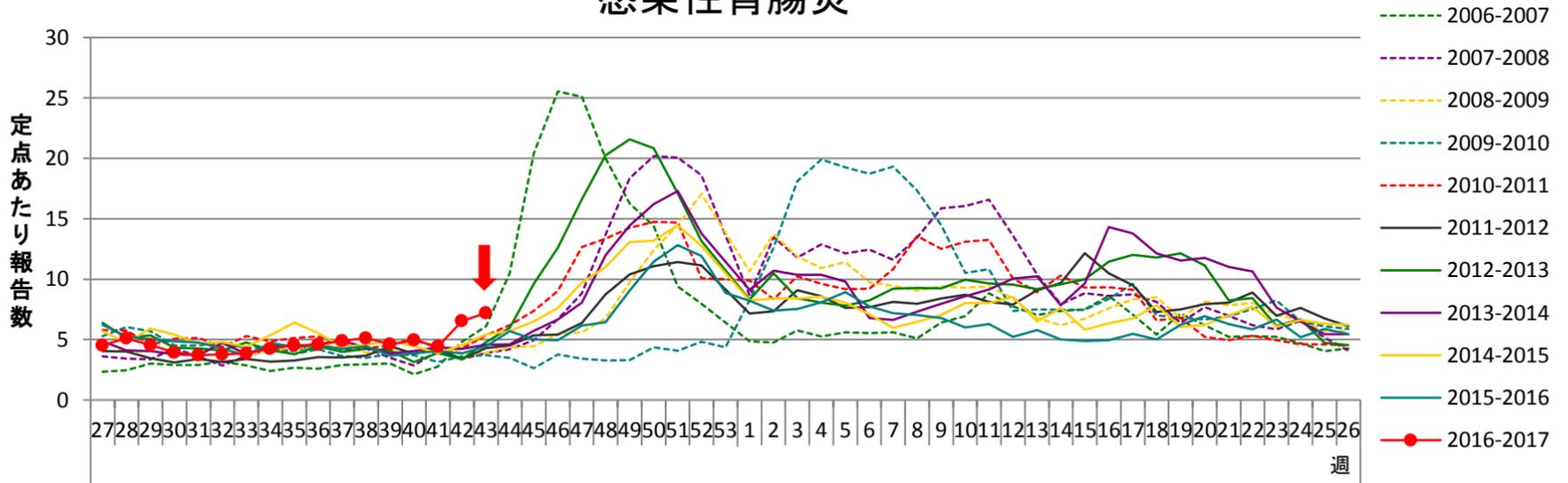
全数把握 感染症患者発生状況

2016年 43週

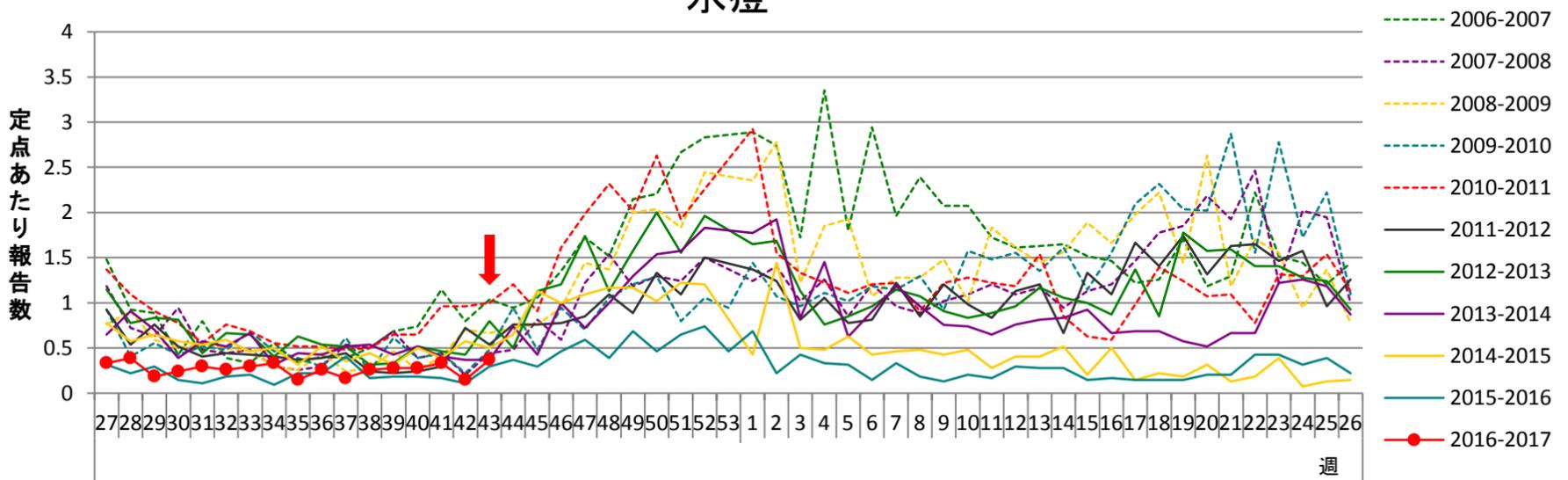
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	251	374	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	2	腸管出血性大腸菌感染症	1	57	63
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	3	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	3	9
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	1	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	1
	デング熱	-	1	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	1	-	日本紅斑熱	-	4	3
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	22	28
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	17	17	ウイルス性肝炎*3	-	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	23	34
	急性脳炎*4	-	8	14	クリプトスポリジウム症	-	-	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	2	後天性免疫不全症候群	-	9	21	ジアルジア症	-	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	6	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	1	24	35
	水痘(入院例に限る。)	-	1	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	31	25
	播種性クリプトコックス症	-	1	1	破傷風	-	2	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-



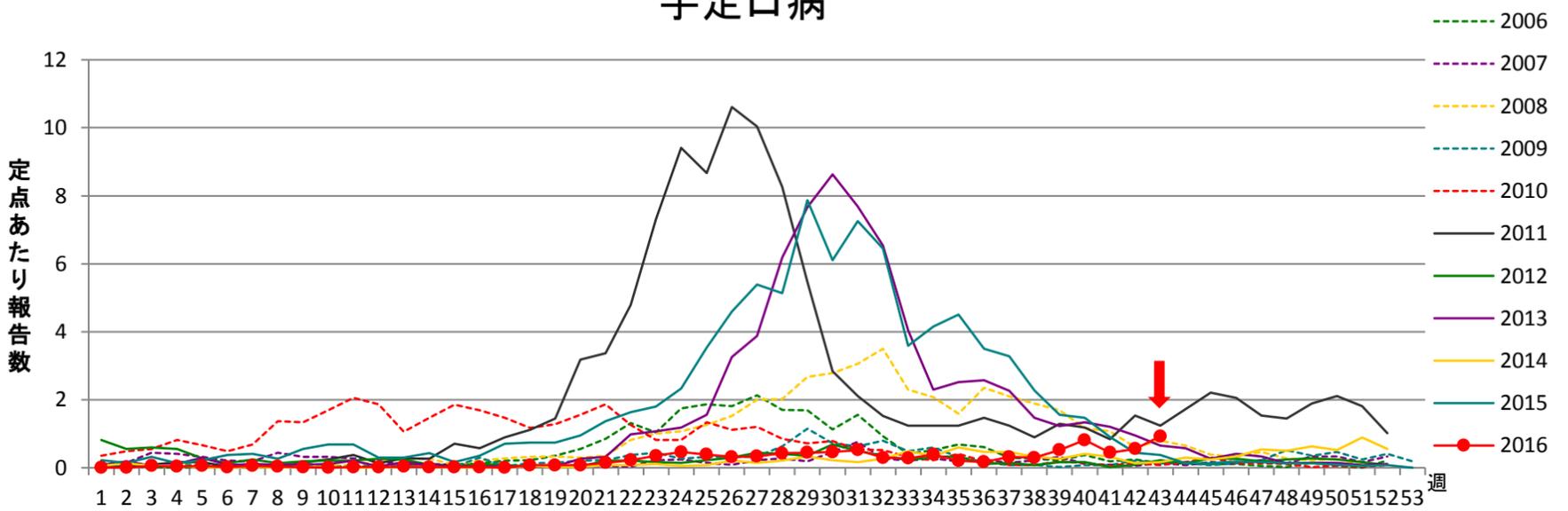
感染性胃腸炎



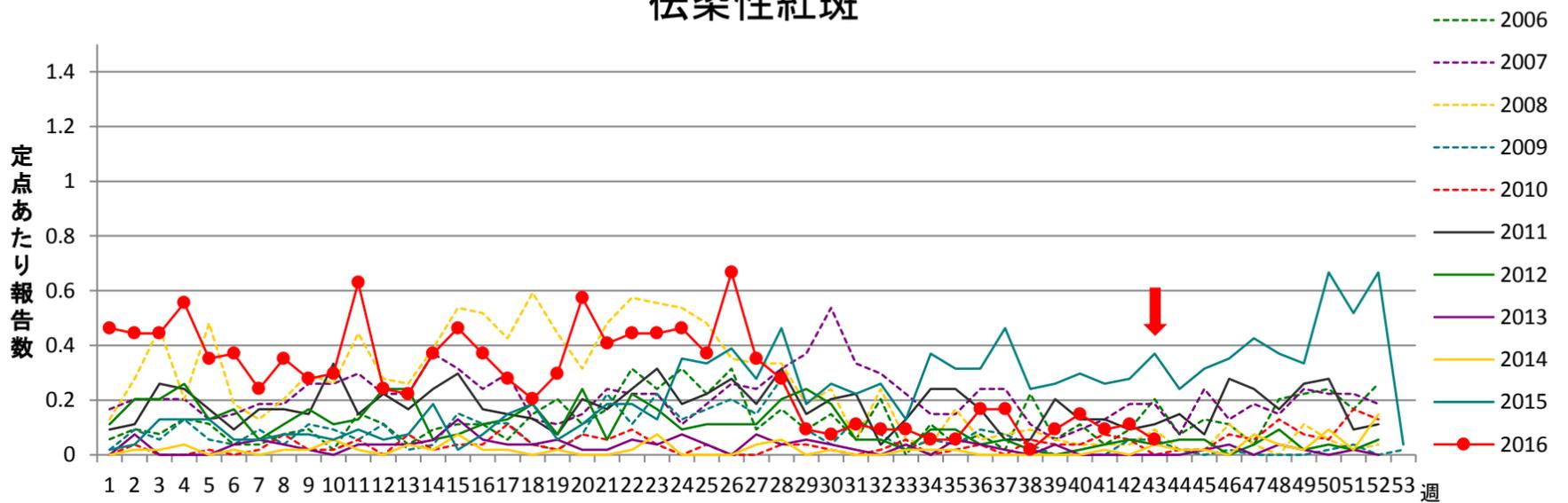
水痘



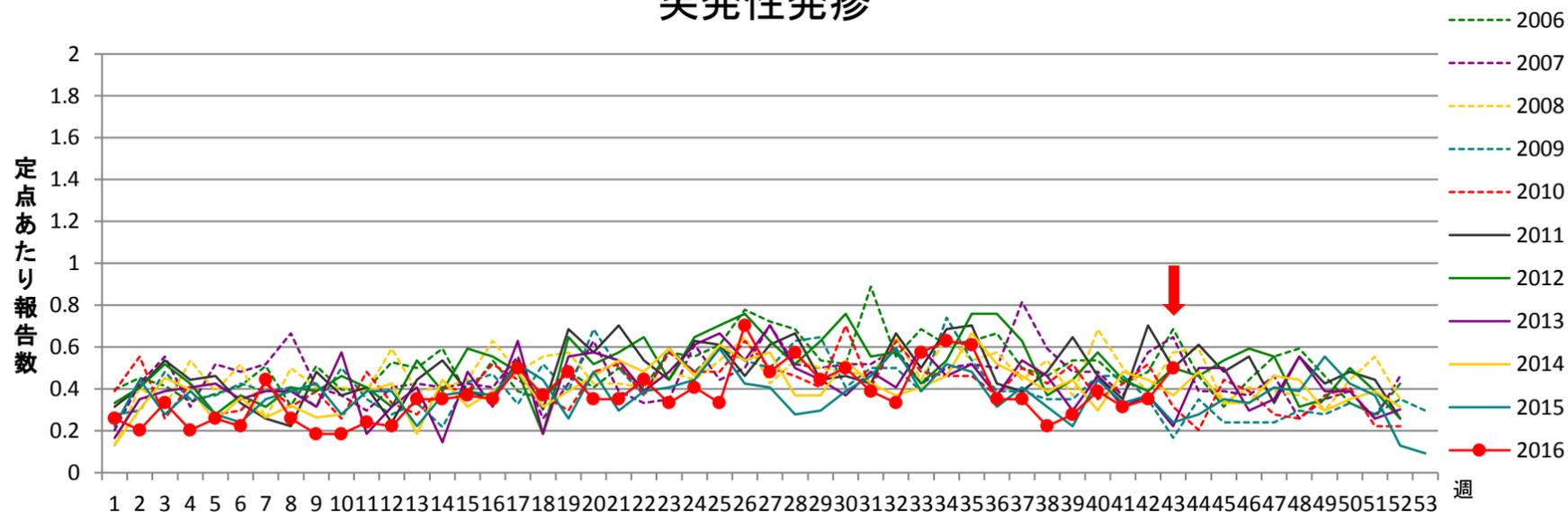
手足口病



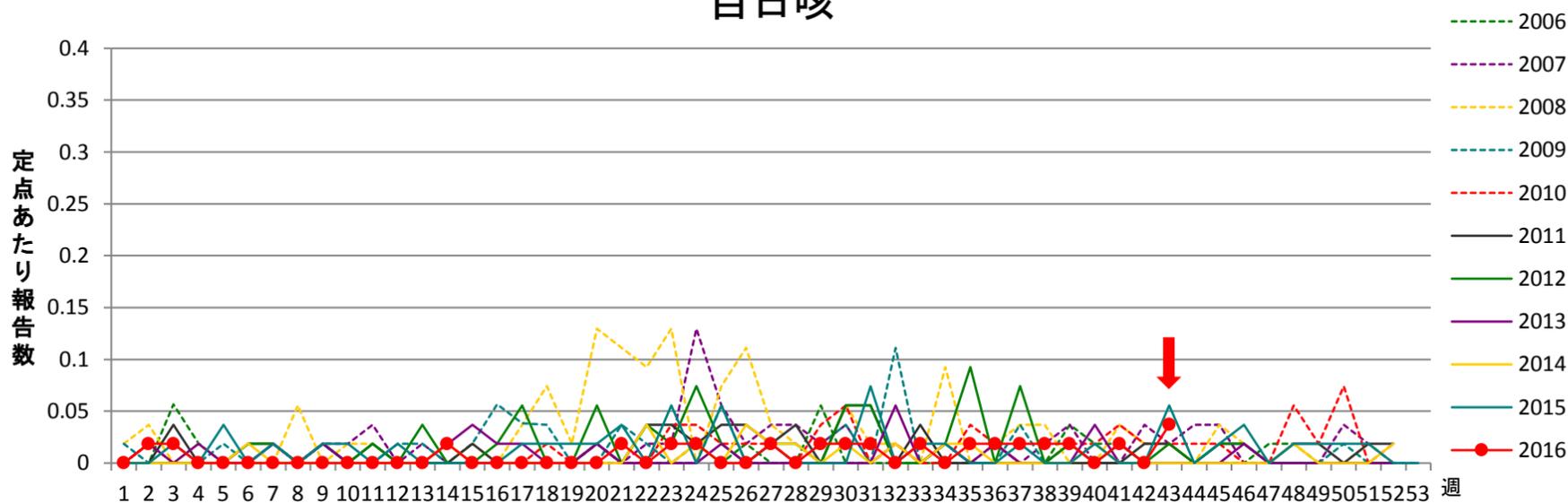
伝染性紅斑



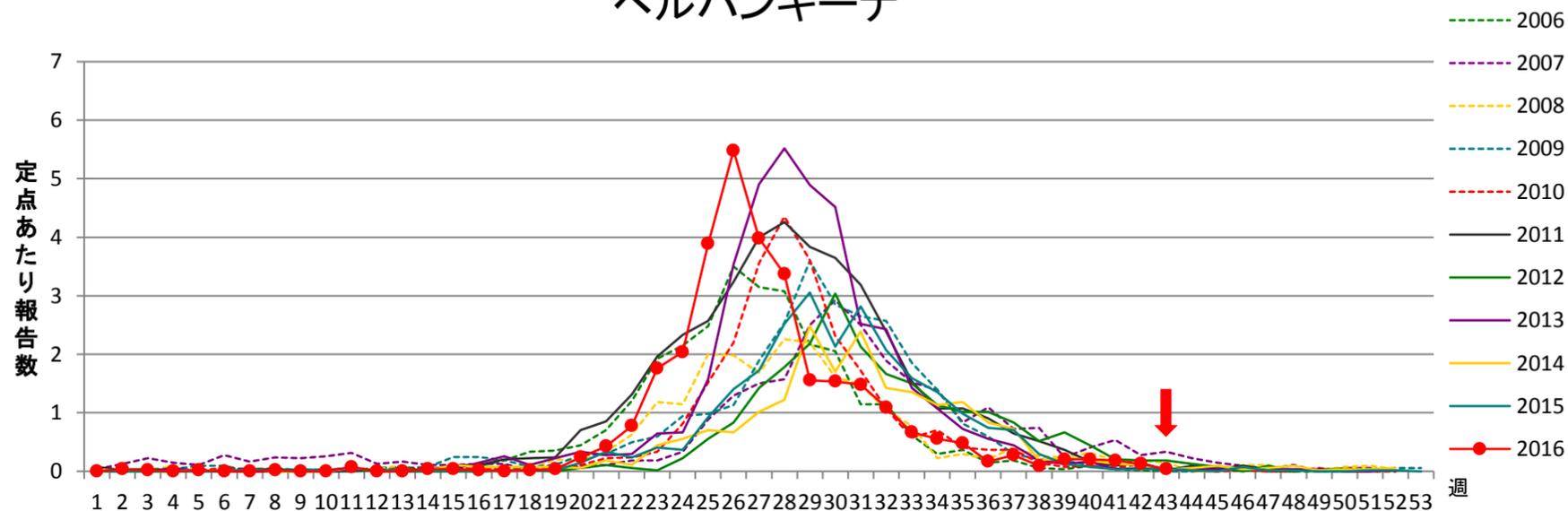
突発性発疹



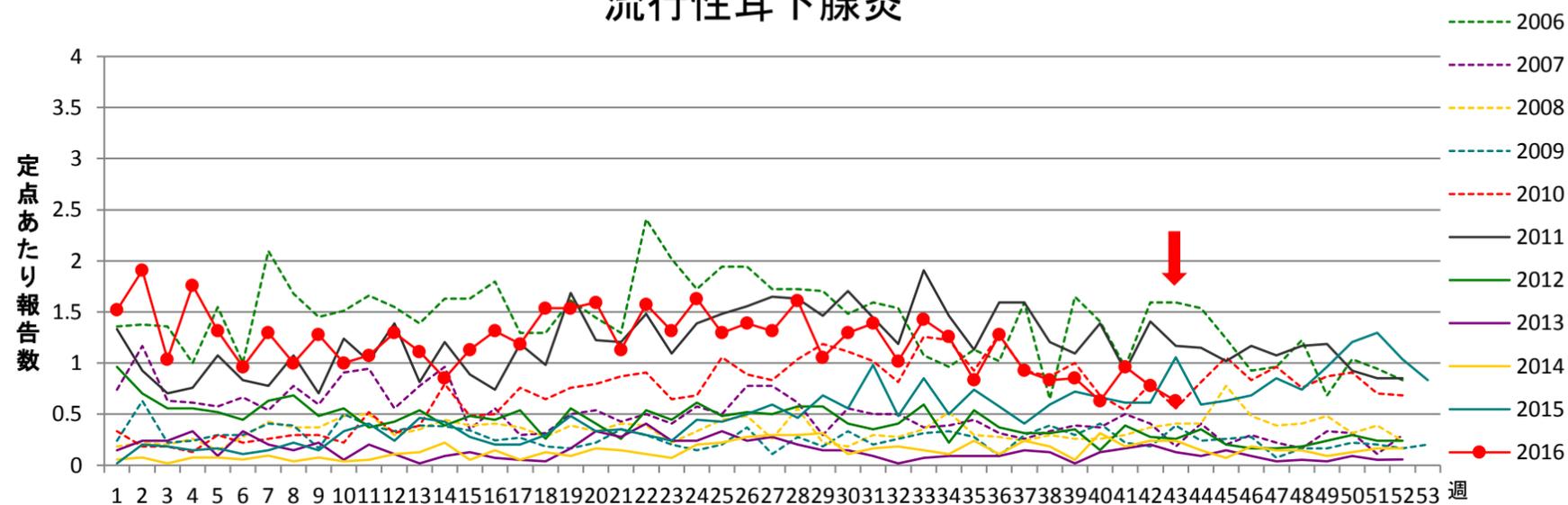
百日咳



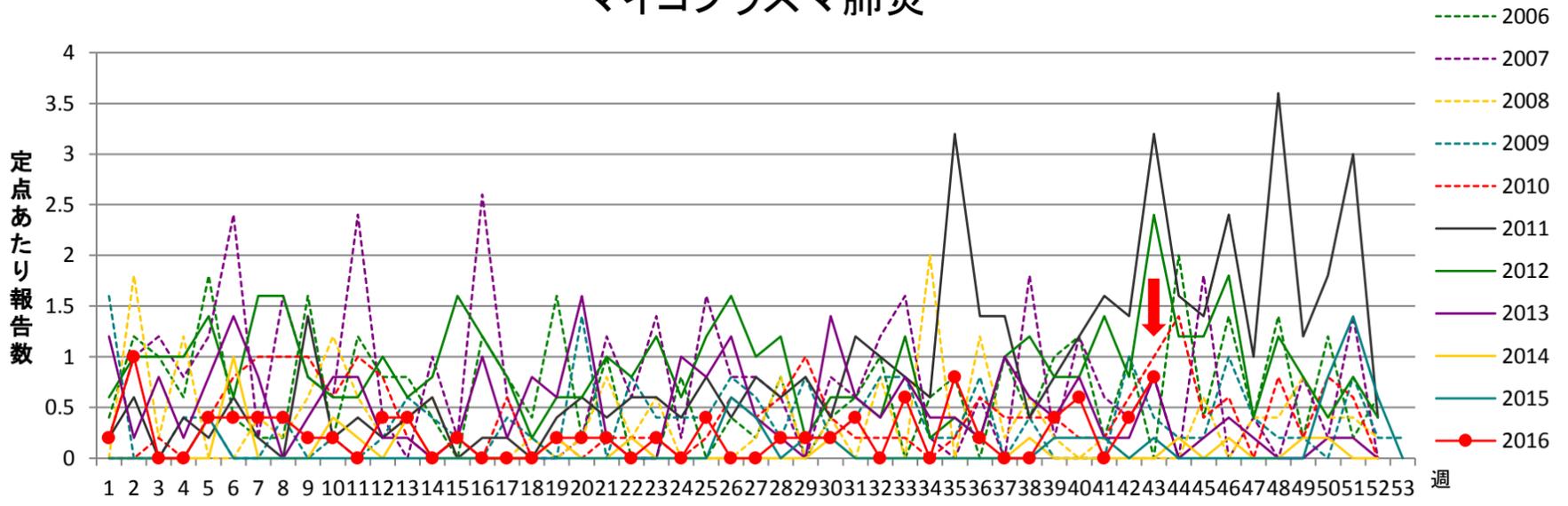
ヘルパンギーナ



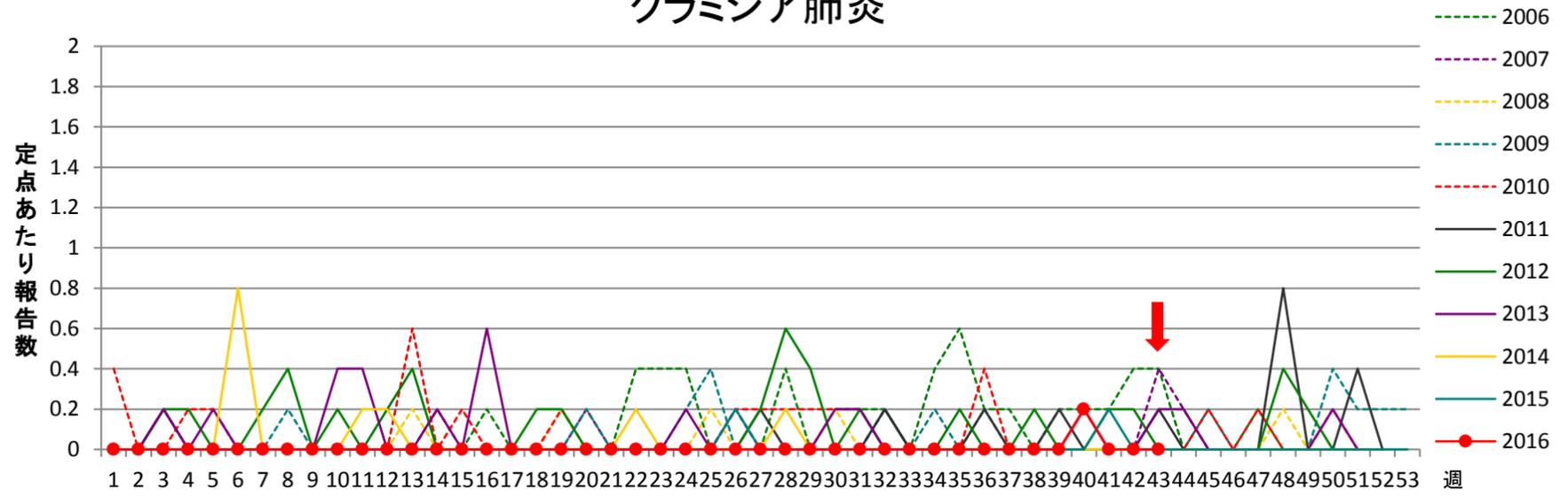
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

